

ミズゴケ亜綱ミズゴケ科

オオミズゴケ

Sphagnum palustre L.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 17

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

ガーデニングの普及とともに採取され、量的に減少しつつある。また、土地整備のために埋め立てられ生育地の減少が見られる。環境省によるカテゴリーでも準絶滅危惧に指定されている。

【概要】

植物体は緑色～黄褐色で、乾燥すると乳白色になる。茎の頂端付近では多くの枝が生ずる。国内では北海道～九州の各地に生育している。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部・中部・西部の限られた範囲の地域に生育している。これらの生育地は酸性 (pH3-4.5) の強い多湿地であり、民有地の田圃の畦・溜池・谷筋などで生育している。

【存続を脅かす原因】

ガーデニングによるオオミズゴケの利用、道路整備・土地の利用のための埋め立てによる生育地の減少。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	溜池	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○			△			△	○	△			○									

ゼニゴケ目ウキゴケ科

ウキゴケ (カズノゴケ)

Riccia fluitans L.

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 17

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

低地のきれいな水辺に生育する葉状苔類で、水質汚濁の指標生物となっている。県内における生育地は限定されている。

【概要】

葉状体はへん平で線状。大きさは1-5cm、幅1mm未満。規則的に二又状に枝分れする。湧き水の流れ込む池や休耕田の水の中に生育する。また、水田などの湿った土の上に生育する陸生型と呼ばれるものもある。陸生型は葉状体の幅が狭く、厚みがあって丸みを帯びる。雌雄同

体であるが生殖器や胞子体をつけることはきわめてまれで、国内でも胞子体は陸生型のみ知られている。胞子体は葉状体の組織内にうずもれたまま成熟する。

【県内の生育地域・生育環境】

生育地は山地からの湧き水が流入する休耕田や溜池で、いずれも水生型。葉状体は絡まり寄り集まって群生していた。

【存続を脅かす要因】

水質汚濁、農業散布、水路の改修など。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	休耕田	森林	草原	農地	河川	湖沼	溜池	林地	草地	砂浜	河口
○			○										○						○				

ミズゴケ亜綱ミズゴケ科

ホソベリミズゴケ

Sphagnum junghuhnianum subsp. *pseudomolle* (Warnst.) H. Suzuki

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 17

島根県固有評価：－

環境省：情報不足 (DD)

【選定理由】

東南アジアから日本の中部地方まで分布している南方系でしかも懸崖性のミズゴケである。一度、群落の剥離や脱落が生ずると、現状の回復はなかなかできない。

【概要】

植物体は淡緑色～黄褐色で、乾燥すると乳白色になる。国内では九州～本州 (中部地方まで) に生育している。

【県内での生育地域・生育環境】

県東部の雲南地域、県中部、県西部、隠岐諸島のごく限られた地域に生育している。

【存続を脅かす原因】

植物体の採取による生育量の減少。

生育地域				山地地域				里地地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	岩壁	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○					○														

藓苔類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

クロゴケ亜綱クロゴケ科

クロゴケ

Andreaea rupestris Hedw. var. *fauriei* (Besch.) Takaki

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

高地の日当たりのよい岩上や岩の割れ目に生育している高山性の藓類であるが、島根県における生育地や生育量はきわめて少ない。

【概要】

茎は立ち、1 - 2 cmの大きさで、色は黒褐色である。乾いた岩上に生育しているものを指で触ると、すぐにポロポロにちぎれる。葉は卵状長楕円形で中肋はなく、葉身細胞の背面には大きなパピラがある。国内では北海道～九州の高山で生育している。

【県内での生育地域・生育環境】

雲南地域の高山、県西部の特定の高山の山頂近くの岩上、または、岩の割れ目で生育している。

【存続を脅かす原因】

登山者などによる踏み付け。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	露岩	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
△			△																				

ゼニゴケ目ウキゴケ科

イチョウウキゴケ

Ricciocarpos natans (L.) Corda

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵 17

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

水田や池などの水面に浮遊する葉状苔類。農業散布などの影響で全国的に激減し、環境省によるカテゴリーでは準絶滅危惧に指定。県内でも生育地や生育量は著しく減少している。

【概要】

水面に浮遊する葉状体は長さ1 cm前後のイチョウの葉に類似したものになる。葉状体は先端が二又状に分岐し、成長すると中央部で分割して2個体になる。また、泥土状に生育するものは分岐した葉状体がのびてロゼット状

になっている。県内産のイチョウ形の葉状体は有性生殖もして胞子体がつくられ、葉状体が分裂するとき胞子は水中に分散する。分布は全世界的で、国内でも北海道から南西諸島まで低地の水辺に分布する。

【県内での生育地域・生育環境】

県全域の水田に分布するが、生育地域や生育個体数は水質との因果関係が深い。

【存続を脅かす要因】

過剰な農業散布。

生育地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○							○					○		○				